

令和2年度第2回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和2年7月28日（火）18：30～20：00

【場 所】 旧適沢コミュニティセンター

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 検討資料

【出席者】 10名（14名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	宮田 勉	○	委員	佐藤 晃一	○	委員	水崎 理	○
副会長	渡邊 隆之	○	委員	阿部 ゆかり	○	委員	寺山 広司	○
委員	岡本 俊介	○	委員	木村 美幸		委員	門脇 弥	
委員	久慈 貞子		委員	赤間 香子	○	委員	羽立 裕子	○
委員	鳴海 翔		委員	渡邊 真奈美	○			

（アドバイザー） 川村佳広氏

（支 所） 畠中支所長、開発市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）、
宇野市民福祉課保健福祉担当課長（兼はまます保育園長、浜益国保診療所庶務
課長）
地域振興課 船橋主査

（事務局） 佐々木地域振興課長、柿崎主査、小貫主任

（企画経済部）中西次長（厚田浜益担当）（扱 企画課長）

【傍聴者】 1名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項

地域イベント等の開催結果について
「いっぺかだれやフットパス」

4 協議事項

① 移住・定住の取り組みについて

5 その他

6 次回の開催日程について

7 閉 会

1 開 会

2 会長あいさつ

【宮田会長】

お忙しいところ会議に出席いただきありがとうございます。

テレビ等でご覧になっていると思いますがコロナのニュースばかりでございます。ますます悪化しているような国内の情勢であります。皆さん憂鬱な毎日をお過ごしではと思っております。

6月の会議の後にも色々ありました。石狩市の職員として頑張っておられた方が山の事故に遭い、大きな衝撃を受けました。あらためまして安らかなるご冥福をお祈りします。

そして、消防・警察・市職員はじめ多くの市民ボランティアの方々の捜索活動に対しましてはあらためまして敬意を表したいと思っております。

海水浴場の閉鎖、各種イベントの中止など寂しいニュースが多くある中、明るい話題がありました。

去る6月18日には「ふれあいサロンカフェクローバー」が柏木にオープンしました。

普段、家に閉じこもりがちな高齢者の方々をはじめ、多くの市民の皆様の新しい交流の場として活用されることと思っております。

そして、今週の北海道新聞には「浜益缶バッジ」の企画制作に携わりました柿岡さんと小田社長の笑顔の写真が大きく掲載されておりました。皆さんご覧になったと思っております。

ヒントはどこにあるかわかりません。区民の小さなアイデアが形となり、地域の元気や知恵となって大きくなっていくこと切に願っているところでございます。

柿岡さんにはTシャツや缶バッジに続く第3弾を期待しているところです。

本日会場を「旧カフェガル」に変えまして会議の雰囲気や少し変えて、前回の会議で提起されておりました「山村留学」について、もう少し掘り下げて勉強してみたいと考えております。

事務局より制度の説明の後、皆さんよくご存じの川村佳広元浜益中学校長にお願いし、過去の山村留学に取り組んだ経験談などをお話ししていただく予定となっております。よろしくお願いたします。

【事務局】

会議に入る前に本日の協議事項のアドバイザーといたしまして、川村佳広さんにお越しいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

【川村アドバイザー】

ご紹介にあずかりました川村です。

浜益のお役に立てればと非常にとても光栄に思っています。自己紹介に代えまして、お手元の資料をお時間のある時に目を通していただければと思います。

退職して3年経ち、現在、江別市の教育委員会にいますが、今回このような形ですが、皆さんの何かのヒントになるお話しができればと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

3 報告事項

(1) 地域イベント等の開催結果について

「はまますいっぺかだれやフットパス」について報告（事務局）

去る7月19日ははまますいっぺかだれやフットパスを実施しました。定員20名に対して26名の参加で実施しております。

参加された方の感想としては皆さん概ね「楽しかった」というご感想を頂いております。次回は9月13日に第2回目を予定しております。

4 協議事項

(1) 移住・定住の取り組みについて

【事務局】

地域活性化のアイデア ～ 「山村留学」について ～

前回の宿題として「山村留学」について、利用者目線ではなく運営側目線で調べました。
～ 公立学校の制度や山村留学の概要、メリット・デメリット・ハードル等を説明 ～

私見が多く入っていますが、大事なところといたしましては、様々な角度から体制を整備する必要があり、相当な議論と覚悟、大勢の区民の協力が必要で、どれが欠けても持続可能な山村留学は実現できません。

事務局としては、山村留学を主軸にするのではなく、山村留学を話題として浜益の課題を洗

い出し、地域の人たちを巻き込んで議論するほうが、良い方向に進みやすいのではないかと考えています。

あくまでネットで調べた内容ですし、山村留学を否定しているものではありません。ただ「簡単ではない」ということを感じました。ご理解いただきたいと思います。

【川村アドバイザー】

事務局から詳しく説明もありましたが、私が山村留学を経験したという事ではありません。

浜益に来る前に平成20年・21年に厚田中の教頭をしておりました。その時に例えばコミュニティスクールどうなんだろうと、校長と一緒に将来児童生徒数がどういう経路をたどるのか？できるだけ詳細に調べてみて、遠からず10数年後には複式の世界が来るだろうという事も考え合わせて、当時厚田支所で働いていた尾山さんと議論しながら調べたという事がありました。

私の経験から言うと、山村留学ではないのですが、息子が2人いますが、江別市のちょっとはずれにある特認校という小さな学校へ二人通わせました。

複式でしたが、息子たちを見てもその当時身に付けたスキルというか、人間が嫌いにならないとか、自己肯定意識とか異常なほど高いのは幸せなことではないかという感想を持っています。

具体的な話をする前に浜益中の今の状況を水崎校長に活動を含めて話をさせていただきます。

【水崎委員】

前回の会議でもご挨拶させていただきましたが、この4月に中学校に着任しました水崎と申します。

私も8年から10年前までは当時川下にあった中学校の教頭としておまして、浜益と中学校をこよなく愛する一人です。

川村先生がおっしゃったこと、私も本日発行・配布した学校だよりに書いたのと、やっぱり間違いじゃないんだなと思いました。

学校も地域に何かするという事を常に考えています。

事務局が作った資料で中学校1年生から3年生までの表があります。例えば1年生と2年生の足し算が、9人になれば複式になります。そういう北海道の決まりがあります。

今は足して9人になっていますが、次年度の1年生の通常級の子供が1名ですので、9人に満たなくなります。特別支援学級は別なんですけど、次年度本校はこのままでいくと2学級の学校になっていきます。

複式を否定するものではありませんが、子供がちゃんとした教育を保障される立場から言いますと、1学級減ると教員が3名減ります。

という事は、下手をすると国・社・数・理・英の教員が揃わない可能性があります。

さらに、免許を持たずに音楽、美術、技術、家庭、保健体育という教科をやらなければなりませんので、専門家以外の方が勉強しながらやっていくという状況になります。それに加えて

全校生徒が現在 15 名おりますが、次年度もしも、2 名しか入らなかった場合は 15 名満たないと事務職員も配置が無くなります。

そうすると事務職の仕事を教頭と校長で分担することになります。さらに、特別支援学級が 1 学級ですので、3 学級の学校になります。

もしもこの特別支援学級がなければ 2 学級となると、養護教諭と教頭の配置も無くなります。大きく人数が変わらない 15 名が 13 名になったのに、これだけ職員が減り、同じ行事をこなす、よりきめ細かい教育課程を組んで教育を保障するには、困り感が学校としてはありますが、学校がどうこう言える立場ではありませんので、与えられた中ではやることはやらなければならないと思っています。

今回、多くの人に知ってもらうため、学校だよりに QR コードを付けました。どこかで誰かにホームページを見てもらえるかもと思っての工夫です。教頭は毎日一生懸命ブログを更新しています。また、小学校や浜益観光まちづくり推進協議会の HP とも相互リンクを貼り、さらに浜益に移住を考えている人向けに発信している渡邊委員のブログにもリンクを貼り、情報発信の工夫をしています。

私も個人で色々で歩くための名刺に QR コードを付けて、勧誘ではないんですけど、修学旅行の折にも函館行きますし、何かを発信したいと考えています。

もう一つ、至急作ってきたプリントで、浜益のチラシみたいなものがあつたと思います。こちら教頭が作成したのですが、この浜中をアピールするためのものです。

というように、何かできないかということをもみんな必死に考えています。

どこで誰かが見て何のメリットがあるのかわからないので、学校として本当にできることをできる限りできるだけという考えております。

あとは、やれるだけやって 3 月に人が増えなければ仕方ないですが、でも次年度以降また、こういう土俵に上げていただければありがたいなと思います。

また、こういうことをやっていますという優先順位としては、まず本校の保護者の方に説明すべきと考えました。

先週やっと家庭訪問と授業参観を実施することができ、全体懇談のなかで同じように実情をお伝えしております。

地域協議会でも考えてくれていますし、浜益全体として考えていければという事を話しました。また、今回学校だよりに区民の皆様へというメッセージを書いています。区民の意思を統一して旧石狩の方へあげていく、そして地域ぐるみで盛り立てようという事に一緒に乗っていければと考えています。

学校ができることは、いい教育をやってそれを発信するような当たり前のことです。地域・保護者の皆様にお願ひしたいのは「人を連れてきてください」教育委員会に言いたいことは定数以外でも教員は呼んで来てくださいということです。以上そのような状況です。

【川村アドバイザー】

ありがとうございました。

水崎校長はあきらめない人、コロナ禍なので大体、大きい学校に右ならえして、学校祭は歌

をうたわせたらダメだとか、バザーもダメだとか、この形で統一するとか、そういう流れになるんですが、水崎校長は「うちはこれができる！設備が整っているからやらせてくれ」とアピールする。さすがだなと思って私も感心しました。なんとかみんなの気持ちが向けばなあと思いました。

それでは資料をご覧ください。

結論から言うと、浜益が外から人を呼ぶため、イベントやアピール活動を今までどおり実施しながら、どこかから子供を呼ぶという事はそんなに難儀なことではないように私は感じています。

資料タイトルを「浜益に未来を育てる」としましたが、本当は「浜益に人を呼ぶ」と書いたんですよね。多分この言葉は何度もお聞きになって、いつもイメージしていることじゃないかと思いますが、子供を呼ぶという事は外からくる訳ですから、またどこかに戻っていく子供たちではあります、やっぱり担い手の子供たちの基本になるものを浜益で作れたらなあという事で書かせてもらいました。

最初に右側の「学校」というところです。豊かな学びと抽象的な言葉がありますが、浜益の小中学校の魅力は地域との連携の上に成り立っています。

真ん中は教育者として書かせていただきました。よくここは子供たちの「自己有用感」だとか「自己肯定感」を入れますが、大きな学校ではそれがなかなか育たないんです。

自己否定が多くていじけちゃうんですが、浜益の子供たちは自己存在価値をきちんと獲得している。意識的かどうかは別にして、それを作っているのは学校だけじゃなくて、おじいちゃんやおばあちゃんがいたり、近所の方がいたり、何気なくまちを歩いても、どこの子かがわかるというこの関係性が、非常に魅力的だなと思います。

山村留学を考えたとき、浜益の魅力はやっぱり人だと思います。

もちろん環境もありますけれども、先ほど浜中に向かった際、何人かの人と車ですれ違いました。すると皆さん頭を下げてください、私が分かれているかいらないかどうも判然としませんが、これもまた浜益の大きな力です。

留学の基礎って書きましたが、下宿・寮というのは、昔、大量にこう下宿先を用意して「さあ複数形で来い」とアピールした地域もありますが、ほかの学校の例をみるとあまり今どきではないかもしれません。

新しく山村留学スタートする事例、北海道でもあまり多くはなく、それを考えると一番考えやすいのは真ん中のホームステイ。

「家においてもいいよ」という人がいるかどうかです。そして家族で来てもらう人いなかなあ。3年間でも2年間でも浜益に来て子育てして、学校生活楽しんでもらって味わってもらって卒業してもらう。という人がいないか、これが手短じゃないかなあと思います。

浜益には魅力ある色々な取り組みや場所や人たちがいます。

これにちょっとだけ子育て環境をアピールする工夫をしてくれば、僕は十分成り立つんじゃないかなあと思います。

下の方です。山村留学がもたらすものとして、浜益を外にアピールするきっかけになると思います。なんら変わらない事をしていけばいいと思います。

ただし、「山村留学やるぜっ」となるとやはり強いアピールが必要なので、そこに連帯・協働と書いていますから、結果的に連帯協働に向かうんですけれども、まず、俺たちやるぜ！って決意表明していただくこと。そしてアピール活動をしていく。その結果世代が繋がる。地域が繋がる、どんな体験活動や学校が今やっていることがアピールできるかなあって、何ができるかをみんなで考えていくことだと思います。

あとちょっと情報提供ですけども、私の同僚が日高の平取町の振内中学校というところで管理職をしていた経験がありまして、ちょっと話を聞いてみました。

現在この振内中学校は生徒数が23人です。

小学校の方は35人、ちょっとここよりは大きいかなって感じですが、山村留学ってこんな感じでやっていたという話を聞いてきました。

最初にしたことは、村の方達が村でとれた木材を使ってログハウスを建てたそうです。

それで「そこに住んでくれって」アピールをして家族を迎え入れたという歴史があるそうです。作っているときが一番楽しかったかもしれないというお話です。

この学校は下宿とかホームステイとかじゃなく、とにかく、「ここに住んでくれや」というスタイルをアピールしたそうです。そこに反応があった方がいるという。

また、十勝の方鹿追町に瓜幕小中学校は、ここが一番歴史的に古いようですが、昭和63年に瓜幕中学校、ここはかなりの実績を上げて、今、生徒数は35人です。帯広に近いという事もあるんでしょうけれども、そんなことも見えてきました。

実際北海道の中学校で行っている、生き残っているとっていい学校は、平取振内、上川の美深町にある仁宇布中、それから歴史の古い鹿追町瓜幕、十勝（新得町）の富村牛、そして芽室町の上美生、トムラウシは小説を読まれる方、宮下奈津さんという小説家をご存じですか？映画にもなった調律師が主人公の？小説書かれた方が実際にトムラウシに移住というか山村留学なさってて、そのことをエッセイとして「神さまたちの遊ぶ庭」という名作が残されています。

興味ある方、あれをみると町から来た人が何で喜ぶのかなあと、こんなどうでもいいことで喜ぶんだ？ということが伝わるんじゃないかなあと思っています。

ずっとしゃべっていると皆さんが議論する時間が無くなってしまいますので、これはどうなんだ？これはどうなんだ？とガヤガヤしてもらいたいです。

情報提供させていただきました。以上です。

【宮田会長】

ありがとうございます。川村先生、水崎先生から熱い思いを語っていただきました。

この中でお聞きしたい事ございませんでしょうか？

この件は今回に限らず次につないでいきたいと考えておりますので、疑問点があればお聞きしたいと思います。

複式のお話しがありました。何年後かに解消されたらまたもとに戻るのでしょうか？

【水崎委員】

単年度でその人数に達したら増える、戻る、ただ、このまいく見込みが怪しければ正職員じゃなくて期限付き教諭の配置というのが考えられます。

僅少差と言いまして、例えばですが、まちの学校でも1人いれば41人になるような微妙な状況の時には増えるか増えないかわからないときには正職員は配置せず、増えたら臨時でしのぐということがありますので、場合によっては3月の末か2月の途中の基準日によって臨時雇いという形もあるかもしれません。

また、すべての教科の配置が困難であれば、技芸講師の配置ということが考えられます。

例えば美術の専門の教師がその時間だけ講師で来られるような仕組みですが、千歳のコマサトですとか、都市部からちょっとのところでしたら退職された方が「教えに行くよ」と言って下さると思いますが、例えば、ここに花川から通勤してくださる方が見つかるかなっていう事も危惧しています。

「2時間だけやるよ」という人が現れても「冬通勤できないな」とか、そういうことも心配されますので、やはり正職員がフルメンバー揃っている今がベストな状態だと思います。

【渡辺（真）委員】

川村先生に前にお聞きした話なんですけれども、とあるまちの方で学校へ行けなかった子が浜益のおばあちゃんのところに来て通ったというお話を少ししていただけたらなあと思います。

【川村アドバイザー】

はい、縁があったという事なんです。校長になって浜益に赴任する前に江別の中学校の教頭をしていました。その時に完全に学校に来れなかった一人の女の子がいます。担任との連絡もなかなか取りづらく、児童相談所とか市の機関だとかと色々協力したんですけれどもなかなか埒があかなくて、私も教頭として当時関わってました。

その子がたまたま浜益に縁があって、浜益におばあちゃんがいらして、転校する前はそのおばあちゃんとも何度も電話をして、「おばあちゃんのところで引き取ったら多分この子は動くんじゃないかな」みたいな話をしていました。

なかなか現実味がなく、でもちょうど中2の途中でそれが叶いまして、こちらに転校するという事になりました。

ちょうどその子が3年生になるときに校長として赴任しましたので、再会を果たしました。浜益に来てからは一度も休むことなく皆勤賞で卒業しました。卒業式の朝でした、お父さんと一緒にみえられて、私にネクタイをプレゼントしてくださいました。

なぜか校長は燕尾服を着るのですが、付けていたネクタイを外し、頂いたネクタイをして式に臨みました。それ以来ずっと校長時代卒業式はそのネクタイを使用させてもらったという思い出があります。

おばあちゃんの力はもちろんあるんですが、浜益の子供たちの人情というんですかね？当たり前のようにその子が学校に通えなかったという事を全く感じさせないように、友達のパワーというんですかね？があったんだと思います。今もそれはあるんだと思います。

たまたま今私は江別市の教育委員会で不登校の子供の面倒をみています。江別市内で去年1年間不登校だったのは小中合わせて170人くらいです。

そのうちの中学生の5割くらいですか70人くらいを1年間のなかで私は相談したり勉強を教えたり相手をしています。そういう子供たちの中で、浜益へ移ってきて、変わったらきっと人間が復活するという可能性があると感じています。

【宮田会長】

その中で浜益を指名して移るといことは考えられますか？

【川村アドバイザー】

環境を変えるというのは親の決断も必要ですから。

でも、きっかけみたいのはあるかなと思います。

浜益の次に私は千歳の青葉中というところで校長をしていたんですが、その時も不登校の生徒大勢いたんですけれども、高校進学の際にその子に浜益の話をししました。

「浜益は温かいぞ」って「きっとウエルカムな場所ってあなたにあるんじゃないか？」って、その子は今奥尻高校に通っています。

もちろん見学に行って体験もして試験を受けて、保護者も「もうここで育てたい」って「育ててほしい」となって、私も奥尻に会いに行ってますけれども、という例はまだあるのかなというふうに思っています。

【渡辺（隆）委員】

まあ確かに過去に不登校の子が石狩市内に住んでいる子なんですけれども、学年の途中から2年生だったかな？浜中に来て、すぐに友達ができ卒業していった。

卒業後も浜中の子供たちと交流があって、当時私もPTA会長をやっていたんですけれども生き生きとした生活を送っていたなあという印象がある。

ですからそういった子供たちを受け入れるようなPRの仕方も一つの案かなと私は思う。

その子はおじさんおばさんのところから通っていた。

【川村アドバイザー】

そうですね！

ご親戚関係ですと、別に山村留学ってバン！と掲げなくても、すぐにでも実現する可能性はあります。

もう一つだけネガティブな話をさせていただくと、校長先生から複式だったらこうなる学校はこの形になりますって、こう話題が独り歩きしてしまうと、今、実は令和5年までは複式だけれども6年からはしばらくの間は大丈夫そう。

またもとに戻るのですが、今、このネガティブなイメージを受けて、それだったら「今中学校行くのどうしようかな」って考え始める親がいると実はとっても困るんですよ。

もうそれこそ村の人口が段々と疲弊していくというか少なくなってしまう。

同時にというんでしょうか、今いる人達と仲良くみんなで中学校へ行くんだよと一緒に育つんだよということも意識する必要はあると思います。

確かに高校がないというところからもう10年近く経ちますが、それは大きなショックだったわけですが、逆に言うと中学校で浜益を離れるということは子どもたちにとって、自立にもすごい力になっている。

大きな町の学校だと、「まあ中学校出たら仲間とどっかの高校行く」という感じで、ほんと一人で立つ、立たされるということは、よほどでないともだだ子供なんですよね。

ところが浜益から育っていく子供はやっぱり必然的に覚悟させられる。

もちろん保護者の方は経済的にも精神的にも大変なんでしょうけれども、それが学校教育の中の一つの柱にはなっているなあと強く感じます。

町からたくさん来ればいいですけど、たくさんじゃなくてもいいですけど、何人かくればいいなあと、ここで育つ子供たちにとっても良いことがたくさんあるんだろうなと思います。

【水崎委員】

ただいまのことも大変ありがたく思います。

この児童数の推移というのはこのまま行つての話ですので、むしろあの中には本校の職員のご子息も含まれておりますので、出ていく可能性が出てきます。

その時にずるい話ですが、中1の子供を持つ教員を引っ張りたいです。

ところが定数減だと職員が来られないんです。マイナス3人ですから。だからあのままというのは楽観できないんです。

ですから今小学校から増やしておいて安泰にというような長期的なものが欲しいです。昔であればそういう作戦があったのかもしれませんが、短い目で見てもその場しのぎでやっても厳しいのかなあとやはり思います。

【渡辺（真）委員】

山村留学の制度を作って、先生たちの子が残りたいと言ったときに残れる仕組みができればいいなと思います。

【寺山委員】

今日ここで会議をやって思ったのが、こういうところ（旧カフェガル）をうまく住めるようにしたらいいんじゃないかと思う。

子供たちも校長先生方も「景色がいい」というし、あるものを使うようにしてやった方が逆にいいのかなと思う。

バスだって止まるだろうし通学には不便ではないし、素人の考えですけど、ある物をうまく使って部屋を作れば寝泊まりはできるはず。

お金は少しかかるかもしれないけど。私も子供いなくなっちゃったんですけど、進学で町に出ますが、町に出ると先生1人に対して生徒40人じゃないですか？ここだったら先生1人に対して4人か5人ですよ？

それを考えれば塾に行っているようなもんだという感覚はある。その辺親御さんとしてどうなのかなあと思う。何も答えは出せないんですけど。

【宮田会長】

今日じゃなくていいですが、先生の話聞いて自宅に持ち帰り、「ああすればいい」など考えが浮かんだら、また次回の会議で自由にどうしたら実現できるか、やれることはないか、そんなことも継続して話し合っていきたいと思います。

【川村アドバイザー】

山村留学というものと浜益どうしようかというのも、どう人を呼ぼうかっていう9割型はリンクしているんじゃないかと思う。

住む場所の話もありましたが、例えばここを改造していいとなったら、結構日曜大工が好きでやりたいっていうまちの若者はいるんです。廃材でもいいからとにかく住める形にしたら、関わった人は何泊かしていい権利を得るみたいな。

お金かけなくても何とかするみたいな方法で町おこしをやっている地域もある。

結果その建物を活用して誰かに住んでもらう、まあそれが1年間通せばいいですけど短期的にも夏だけ住めるよっていう、それでここで活動してくれる人が増えるかもしれない。

その中から子供連れてきてもいいかな？みたいな人が生まれるかもしれない。自由な発想で実現可能なところを「力貸すよ！知恵貸すよ！」というのが現実的というかやっていてワクワクするんじゃないのかなって、外側の人間ですが勝手に妄想します。

【宮田会長】

ただ、事態が切迫しているというか、やはり持っていくには、ある程度の積み重ねで実績を作っていくながら、そして実現にこぎつけるという進め方が普通だと思うのですが、もう切迫していて時間がないと、実現するにも、例えば教育委員会や市役所に話を持っていくにも色々な準備だとかが必要でかなりの時間がかかると思うんですよ？それらの時間との関係も含めて非常に壁が厚いというか高いというかそういう事を感じる

この件については事務局と内々で打ち合わせをしていますが、次回以降もこの話題で会議をもっていきたい。

これは山村留学にこだわるのではなくて、それとつなぎ合わせて地域おこし、人を呼ぶ方策を含めて考えていければと考えています。

長い時間がかかり難しいとは思いますが、なんとか良い方向に持っていければと思います。

【佐々木課長】

前回の会議が終わった翌日に宮田会長とお話したり、水崎校長と色々お話をしたりした中で柿崎主査の説明でもありましたが、山村留学に絞ってそれをどう実現するかというよりは、もうちょっと幅広にいろんな人の動きを導き出す。

川村先生が最後に言いましたけれども、いろんな人のつながりの中から、「じゃあここに住んでみようか」と誘導できればいいと思うし、だけど究極はカンフル剤的に山村留学制度で打ち上げてみて人に来てもらいたいというのはあるんですけど、いずれにしても山村留学の方は時間がかかるし、実際、間口を持って来るとかという相手もある話なので中々難しいのかなと、でもそれも一つ頭に置きつつも幅広にいろんな人の流れを、地域を気に入ってもらえる人を増やすかということをやっぱり主に考えることも必要なのかなと思います。

余談ですが、渡辺（隆）委員もおっしゃっていましたが、教育委員会にいたときに縁のある方の姪っ子さんが来て、中学卒業していったと、その人も昔いじめとか色々あったと聞いていましたが、その話を思い出して川村先生の話聞いた時にそういう人にどうアプローチするか。

例えば「隣に住んでいるお孫さん学校行ってないんだって」という人をたきつけてやるよりは、浜益の関係の人が、例えば札幌とかで縁のある子供がそういったことになっているとなった時に、浜益の教育力じゃないですけども、川村先生が言ったような、ここは自己肯定感、いい環境だということをここに人達が、我々がよく理解して、「もしよかったら浜益の学校行ってみたらいいんじゃない」とアドバイスできるような、浜益区ぐるみで盛り上がっていければいいのかなと理想論ではあるのですが、中々そこに直接的に何かPRのチラシ配ってどうこうよりも、草の根というか区民ぐるみの意識を高めるというのが大事な事なのかなと思って聞いていました。

宮田会長おっしゃったように、次回以降もそういうところも色々な論点を整理しながら話をしていければいいのかなと思います。

【宮田会長】

今日のところはこの話題につきましては閉めたいと思いますが、最後に川村先生からひと言お願いします。

【川村アドバイザー】

時間が限られておりますので、一言。

水崎校長が浜益にゆかりのない子供を見つけてきたときに「住むところ何とかしてやる

べ！」という人が現れれば成立です。

あるいは私が、この人浜益に縁じゃないんだけども何とかならないかとなった時にひと肌脱いでくれる人を見つけておいてくれればいいかなと思います。

もし万が一、先ほどのおばあちゃんのお孫さんのように「不登校で行けないよ」となったら私は不登校相談員ですので、江別市に雇われておりますがいつでも話しをしに年休をとって駆けつけますので、知恵を絞っていただければ何とか動きたいなと思います。

そういうことも不登校に限らず「住む場所どうだろうね？」って、「家族で行きたいけれども、あるいは中学生だけなんだけれども」ってなった時に「受け入れてもいいんでないか」っていう人が現れれば幸せだなと思います。

【宮田会長】

次回からはこのような話しを自由に話し合っ整理していきたいと考えています。

今日話し合った内容につきましては、資料をまとめていただきまして次回の会議の準備をしたいと思います。

危機感を持っているのは、直に聞いている我々だとかPTAの父兄だけとか、まだまだ少ないと思うんですね。一般区民の方々に失礼な言い方かもしれませんが、なかなかそこまで危機感を共有できない。

話としてはわかるんだけど切迫したような危機感はなかなか持てないと思うですよ。それをいかに住民に理解してもらえるか協力してもらえるか、我々に今できることはないかなど、次回から話し合っていけたらと思いますのでよろしくお願いします。

5 その他

(1) 浜益音頭保存会について

- ・羽立委員から保存会の設立及び活動状況について報告。

設 立 令和2年2月

主 旨 浜益音頭の保存・継承。踊る機会の創出

年 会 費 500円

会 員 数 68名(7/7現在)

現在の活動 指導員の育成(舞踊型の標準化)

※ 地域で浜益音頭の曲を定期的に流すことはできないか？(提案)

(2) 国保診療所の防水工事実施について

- ・宇野市民福祉課保健福祉担当課長から概要報告

(3) 川下・柏木地区の新しい集会機能について

- ・佐々木地域振興課長から報告

(4) 山村留学制度について

- ・ 渡辺委員から導入に向けた部会の設置提案及び先進事例の紹介

6 次回の開催日程について

- ・ 第3回協議会は、今のところ8月中旬を予定しているが、後日改めて連絡する。

7 閉 会

令和2年8月21日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 宮 田 勉